

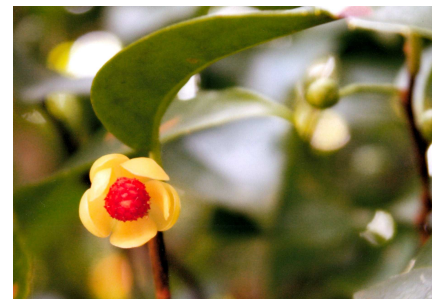
むきぼんだ花だより 8月

2016. 8. 6



◎キカラスウリ(黄鳥瓜)ウリ科カラスウリ属、蔓性多年草

名前の由来:同属のカラスウリは樹上に、長く果実が赤く残るのをカラスが残したであろうと見立てた。果実が黄色であるので、「黄カラスウリ」の意味。雌雄異株。葉はほとんど無毛濃緑色で光沢がある。花は白色で夕方から咲き始め朝には萎んでしまう事が多い、花冠は5分裂し裂片の先が広がり、さらに先端は糸状に細裂する。カラスウリ(鳥瓜)に比べて果実も大型で長さが10cmにもなり秋に熟すと黄色(カラスウリの果実は少し小さく朱赤色)になります。江戸時代からあせもの薬の天花粉(天瓜粉は、この根の澱粉から作られたそうです)。○ 飢饉の際に塊根から、澱粉を取り餅にしました。青い若い果実は塩漬けや粕漬けにするなど、甘くそのままでも食べられます。○カラスウリ属は根、種、果実とも生薬として利用されています。
★ 撮影日:2016,8,6 ★ 撮影場所:イベント広場通路南側草地



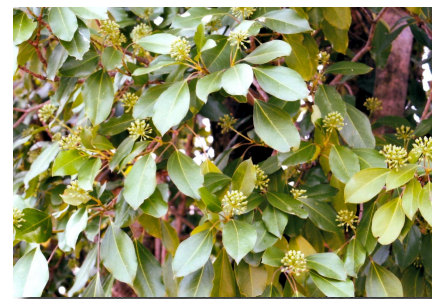
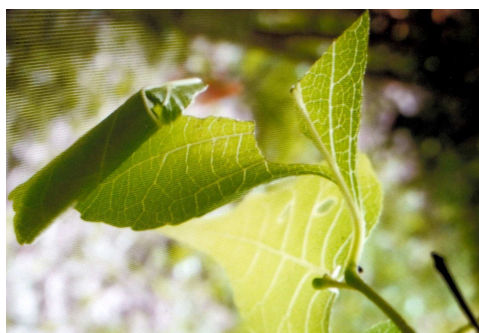
◎サネカズラ(実葛)の雄花、マツバサ科,サネカズラ属

『本種を含むサネカズラ属は以前モクレン科に分類されていたが、現在はマツバサ科。』
常緑蔓性木本。雌雄異花。別名 :ピナンカズラ美男葛)
名前の由来:実(さね)の目立つ蔓(つる)という意味から転訛して、サネカズラと呼ばれた。万葉集には、サナカズラと呼ばれ、サナは、実・滑(なめ)を意味し、カズラは蔓(つる)という意味です。ピナンカズラは、昔、武士などが整髪用に用いたもので「美男葛(びなんかざら)」で、これを用いると「美男」になるという意味から呼ばれた。枝を潰すか樹皮を剥いで水に浸しておくとねばねばした液が出てきて、それを整髪に用いました。○花は、淡いクリーム色で開いた花の中心に雌花は淡い緑色の雌蕊が小球状に固まって付き、雄花は紅色の雄蕊が小球状に付きます。花は小さく地味です。○薬効:滋養強壯、鎮咳に生薬を南五味子(なんごみし=熟した果実を、細かく崩して乾燥させたもの)。新鮮な葉を揉んで切り傷に塗布する。
★ 撮影日:2016,8,6★ 撮影場所:洞ノ原地区入口通路左側林



◎「エゴノキ」の葉にぶら下がる虫の巣

先月は「エゴノキ」に付いて「エゴノネコアシ」を紹介しましたが、今月は葉にぶら下がる虫の巣「オトシブミ」を紹介します。
○写真は、エゴノキで見られる小形で首が長い甲虫(体長6~8mm)の「エゴツルクピオトシブミ」の「揺籃(ようらん⇔卵の揺りかご)です。名前の由来は、昔、恋文や密告などの手紙をわざと気付くように落としておいた。「落とし文」とか「落書」「落首」の事。○別名 ホトギスの落とし文・落とし文の揺籃。○広葉樹林で、落とし文の様な、筒状に巻かれた葉が落ちていることがあります。この「落とし文」をせっせと落としているのがオトシブミです。仲間は、日本に23種生息しているそうです。エゴツルクピオトシブミの早は葉を巻いて作った「揺籃」の中に1個の卵を産み付け、孵化すると幼虫は「揺籃」の葉を内側から食べて成長し蛹になります。羽化した成虫は巣の揺籃に穴を開けて出てきます。初夏~真夏に成虫が見られるそうです、エゴ鶴首オトシブミの揺籃は、葉から落ちないでぶら下がったままなので「落とし文」と云うより「揺り籠」と呼ぶのがふさわしい様です。幼虫は「揺籃」の葉1枚を食べて育ちますので、非常に合理的な無駄のない、エコな甲虫と云えます。当日「落とし文」の中は残念ながら空で、成虫も後日写真撮影に成功しました。
★ 撮影日:2016,8,6 ★ 撮影場所:洞ノ原入口通路右側林

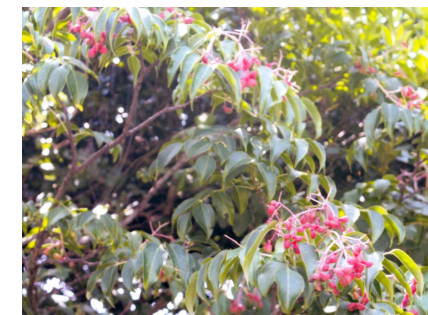


◎ カクレミノ(隠葉)ウコギ科、ウカクレミノ属

別名:カラミツデ、テングノウチフ、ミツデ、ミツナガシフ、ミゾブター、等。
常緑高木。名前の由来:葉の形が身を隠すのに着る蓑にたとえたもの。葉は、濃緑色光沢がある卵形の単葉で、枝先に互生する。変異が多く稚樹の間の葉は3~5裂に深裂するが、成長とともに、深裂する葉が少なくなり混在する様になる。花期は6~8月で、両性花と雄花が混じって咲く。晩秋には黒紫色に熟す。○ 樹液中に渋の成分と同じウルシオールを含むため、**体質によってはかぶれることがあるので注意が必要です**。近年庭園木として植栽されることが多くなった。
★ 撮影日:2016,8,6 ★ 撮影場所:洞ノ原地区

◎ ゴンズイ(植萃) ミツバウツギ科、ゴンズイ属。落葉小高木。

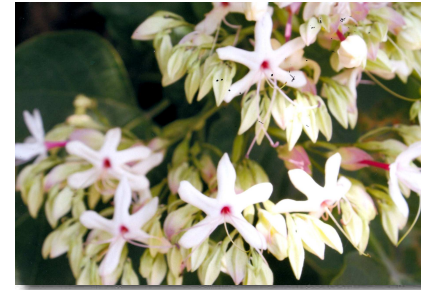
別名:狐の茶袋(キツネノチャブクロ)=実の形から :黒臭木(クロクサギ)=臭気から○ 樹皮は紫黒色を帯び、細長い割れ目が縦に走る。葉は対生。奇数羽状で、花期は5~6月円錐花序に黄白色の花を多数つける。果実は袋果で熟すと赤くなり、袋果が裂けると中から1~3個の真っ黒で鮮やかな光沢の種子がみえる。内側の鮮紅色と相俟って非常に美しい。名前の由来には諸説あり、判然としない。①魚のゴンズイに由来し役に立たないため、②熊野権現の守り札をつける牛王杖(ごうずえ)が訛ったもの。この杖をこの木で作ったため。③赤い果実から真っ黒な種子が出るのが天人の「五衰の花(ごすいの花)」を思はせることから。(中村浩の説)④ミカン科の植物のゴシュユに似ていることから(深津正の説)等があるが、牧野氏のゴンズイ説が多い。
★ 撮影日:2016,8,6 ★ 撮影場所:洞ノ原入口右側林



◎クロモジ(黒文字)、クスノキ科、クロモジ属、落葉性低木、

名前の由来:小枝は平滑で黄緑色ですが、地衣類(ちいり)の一種が付着し黒斑があり、それがまるで文字を書いたように見えるため。また、昔、宮中に仕える女房(女官)が、皮を残して先端を砕き、稲穂の様に、歯ブラシとして用いたそうです。それから、しゃもじ(杓子)のように、女房言葉で「モジ」と、樹皮が黒い事から黒木とが転訛して、クロモジと名が付いたと言われます。○雌雄異株で、花芽は、秋に葉のわきに1~2個ずつ付き、翌年3~4月頃開花し、果実は熟すと黒光りして輝くように美しい。○材は辺材・心材とも灰白色で、緻密、軽く軟らかいので、洋傘の柄などに用いられました。樹皮の表面は黒い模様があるので、皮付きの瓜楊枝に用いられ、また葉には芳香のある油が多く含まれていて、香水、石鹸の香料として用いられます。根皮の乾燥したものを生薬の釣樟(ちょうしょう)と云い、急性胃腸カタルや脚氣に、また、去痰や咳を抑える効果、根皮・材・枝・葉とも、浴剤として利用されます。

★撮影日:2016.8.6 ★撮影場所:洞ノ原地区通路左側広場奥林



◎クサギ(臭木)シソ科、(以前はクマツヅリ科)クサギ属

名前の由来:葉を揉むと一種異様なにおいがするのがこの名の由来。落葉小高木、道端等でよく見かけ、藪などに侵入する最初の樹木として先駆植物(パイオニア)の典型である。○葉には特異な臭いがあるが、お茶の他、蒸したり、茹でれば臭いが消えるので、各地方ではいろいろな料理に使用されてきています。特に若葉は山菜として利用されます。○クサギの葉小枝を乾燥したものは、リューマチ、高血圧、下痢に有効。また殺菌作用が強く、腫物や痔の治療に効果があると云われます。○草木染には熟した果実を使うと媒染剤なしで絹糸を鮮やかな色に染める事が出来るほか、赤い色がよく利用されます。○クサギは白い花、果実(紺色の液果)と赤い色がよく目立ち美しいので、欧米では観賞用に栽培されるそうです。観賞用に「牡丹臭木」もあります。

★撮影日:2016.8.6 ★撮影場所:洞ノ原地区

◎ヘクソカズラ(屁糞蔓)、アカネ科、ヘクソカズラ属。

別名、ヤイトバナ(灸花)・サオトメバナ(早乙女花)。蔓性多年草。名前の由来:ヘクソカズラは万葉のころからの呼び名で、全草に異臭があることから、糞(くそ)カズラの意味ですが、さらに、その上に屁(へ)の字を付けて最高の悪臭を漂わせるような名前が誕生しました。仕様の無いくらい可哀想な名前ですね。○花言葉:人嫌い、誤解を解きたい、意外性のある、○比較的日当たりのよい場所に生育し、茎は左巻。他の植物に絡み付いて繁茂します。花は8月頃、葉の付け根から短い柄をだし、その先端に10mmくらいで釣鐘状の美しい花(先端が浅く5裂、外縁灰白色、内側紅紫色)を、茎葉の特異な臭気とはかけ離れて綺麗な早乙女のように咲かせます。果実は径5mm位の光沢のある黄褐色の球状で、冬枯れになると良く目立ちます。○しもやけ、あかぎれ、化粧水に、また腎臓病、脚氣、下痢止め用いられます。

★撮影日:2016.8.6 ★撮影場所:洞ノ原地区通路左側林



◎ウリカエデ(瓜楓)

ムクロジ科(以前はカエデ科)カエデ属。別名、メウリカエデ。日本の個体種 雌雄異株。名前の由来:樹皮がマクワウリに似ているから、と思われるが、類似の木にウリハダカエデがあり、呼び分けの経緯は不明。○若い枝の木肌は、緑色に自っぼい斑点や裂け目がありウリハダカエデに似ている。詳細は「別紙」【ウリハダカエデとウリカエデの見分けのポイント】に。

★撮影日:2016.8.6 ★撮影場所:洞ノ原地区通路左萱畑奥



◎アケビ(木通・通草)、アケビ科、アケビ属、蔓性落葉低木

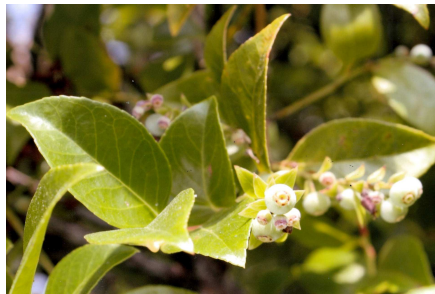
名前の由来:① 熟すと、実がバカッと縦に裂けたように開くことから「開け実(あけみ)」と呼ばれた説。② 赤い実を付けることから「赤み」「朱実」(あかみ)が訛って「あけび」になった説。③ 実が熟して、割れた様子が、人間の欠伸をしている姿に似ているため「あくび」→「あけび」と呼ばれるようになったと云う説、等色々あります。○アケビには、アケビ(葉は5枚)・ミツバアケビ(葉は3枚)・ゴウアケビ(アケビとミツバアケビの雑種と考えられ葉は5枚)の3種類あります。○アケビは果実をそのまま食べるほか、蔓、葉、根、果実、は薬草としての効力があると云われ中でも茎は「木通・もくつう」と云う生薬です。ただし、中国では関木通(かんもくつう)腎臓障害を起こす恐れがある。)を木通とするものも在るようで注意が必要。○「通草」はアケビの蔓を切り取り、片方の端から息を吹き込むと、もう片方に空気が通り抜けることから「通草」の漢字が当てられました。俳句では、「通草」「木通」をいづれもアケビと読み秋の季語とされています。

★撮影日:2016.8.6 ★撮影場所:洞ノ原地区。



◎シャシャンボ(小小ん坊)〜順調に成長しています。

★「むきばんだ花だより7月号に掲載しています。」★



★むきばんだを歩く会★

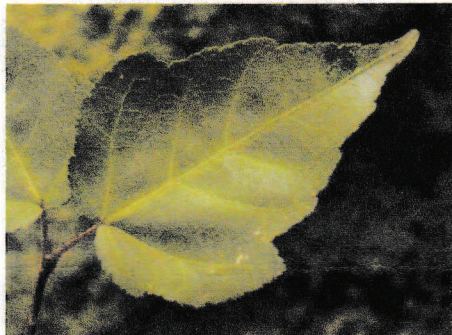
- 指導: 鷲見寛幸先生(鳥取県自然観察指導員)
- 毎月第1土曜日午前9時30分~正午
- 入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ: むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」

【ウリハダカエデとウリカエデの見分けのポイント】

ウリカエデ



浅い山に生える落葉小高木で3m位。
樹皮は帯緑灰褐色。



葉は対生し卵状皮針形で先端が尾状に鋭く尖る。
縁には鈍い鋸歯がある。

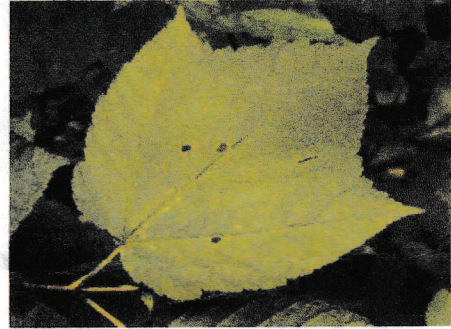


果序は…無毛でほぼ水平に開き、
翼の両端間の長さは4.5cm。
赤みを帯びてよく目立つ。

ウリハダカエデ



多くはブナ帯に生える落葉高木。
老木になると灰色になり、
浅い裂け目ができる。



葉は対生し、葉身はやや扇状
5角形。上部が浅く3裂する。
縁には細かい重鋸歯がある。



果序は…濃褐色の毛を密生し
果実の翼は1.5~2cm。
2枚の翼は斜めに開く。

◆写真は1部インターネットより借用

どちらも木肌が瓜の色合いに似ていることからこの名があるが
ウリカエデはウリハダカエデのような紋はない。